

令和7年度「授業改善推進プラン」(全体計画)

■児童・生徒の学力の状況

令和7年度全国学力・学習状況調査結果より  
 【国語】「思考力・判断力・表現力」の領域において児童の論理的な思考や表現力をもっていることが示唆された。一方で、より複雑な読解・聞き取りの能力、インタビューの目的・理由を問う問題に課題が見られた。  
 【算数】「測定」や「図形」の領域では東京都や全国を上回っている。しかし、「思考・判断・表現」の観点や「記述式」の問題形式においては、正答率が低い。  
 【理科】知識・技能の定着と応用、基本的な知識・技能、特に電気回路や身の回りにある物質の性質に関する知識の定着が不十分である。顕微鏡操作のような具体的な技能にも課題がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 高次の思考力、特に他者の意図や背景を深く理解し、それを適切に表現する能力の育成に重点をおく。
- 習得した知識を活用して考察したり、自分の考えを論理的に記述したりする能力を育成する。
- 学習した知識を応用して、思考・判断し表現する能力の育成に力を入れる。
- 「データの活用」領域における、記述・思考力を育成する学習形態を取り入れ、自分の考えを表現する力を伸ばす。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 「深く考える子」の育成を重点とし「板橋区授業スタンダード」「中台小授業スタンダード」を実践し、読み解く力の向上、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得のための、指導の充実と改善を図る。
- 問題解決型学習・協働学習・習熟度別学習・少人数学習指導など指導方法を工夫したり、主体的で対話的な学びを通して、思考力・判断力・表現力を育む。
- 「MIM」を1・2年生で実施し、読む力の基礎的なつまづきを見付け多重層な教材を使用して解消する。
- Hyper-QUやRST等の結果を分析し児童指導や学習指導に活用する。
- 一人一台端末を活用した家庭学習習慣の定着を図る。
- 「どくしょのあしあと」や年3回の読書週間、よみっこさんの読み聞かせ等を通して読書習慣の定着を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○授業に対する児童の学習活動のめあてを児童が主体的にもち、学習の見通しをもたせ、振り返りの中で自分の学習に対する自己評価を行う。 ○児童が自身で教科書を読み取り、課題を解決する時間を確保する。 ○対話的・協働的学習によって考えをまとめたり、広げたり、深めたりできるように一人一台端末を活用する。	○年間の通して国語科の読みを通して「読み解く力」の育成についての指導法を改善し、児童の読みの力を伸ばす。 ○授業の中にInput・Think・Outputを意識した活動を入れ、思考の時間の確保と表現力の向上をめざす。 ○モジュール授業で国語科・算数科での基礎的・基本的な力の定着をめざし、応用力につなげる。	○児童の主体的な課題を解決する学習を通して、自分の価値観を高め、自己の生き方を探求していく授業を展開する。主体的に判断したり、ねばり強く考えたりすることにより、他者と共生する資質・能力を育成していく。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○「さくら草学びのエリア」として若木小学校・中台中学校、「特別支援学級における小中一貫交流エリア」として上板橋第三中学校との連携を図り、指導の接続を実施し、地域教育基盤の確立のために学校公開、HP等での積極的な情報発信を行う。 ○自然豊かな中庭がある教育環境と20年以上続く花蓮及びさくら草の栽培活動を生かして、自然を大切に、地域の人とのつながる郷土愛を養う教育活動を大事にする。	○総合的な学習の時間における指導では、教科の既習事項を生かした探究的な学習活動を展開する。また、ESDやSTEAM教育に関連する内容をつなげて児童のOutputの学習活動を充実させる。 ○教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等を探り、身近な課題に気付かせ、よりよい解決策を導く授業を展開する。 ○教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源を活用しながら、効果的に組み合わせる。	○習熟度に応じて課題に応じた教材・環境を工夫し、個別最適な学びを実現させる。 ○ペアや小グループ、全体と様々な学習形態を多く取り入れながら、自分の考えと比較したり組み合わせたりして自分の考え広げたり深めたりできるような場面を設定する。